

# 図書館だより 第6号

県商・奈良情報商業高校図書館  
令和4年10月発行



秋の読書週間  
「この一冊に、ありがとう」  
10/27(木)~11/9(水)

ラフテイニング	冷たい水に	触れながら
ガイドさんらと	流れていくよ	
真夜中に	語り尽くした	友との絆
より深まった	杉本まゆら	
2年	布団の中	伊藤 獅芽
ラフテイニング	川の流れば	穏やかで
時折襲う	激しい水波	
2年	堀上 和馬	
スイーツケース	旅行の先で	だんだんと
荷物増えゆき	重たすぎるよ	
2年	守屋 心晴	

毎日新聞 (9/29, 10/6) やまと歌壇 掲載

## 新着図書案内



『図解でわかる 14歳からの自然災害と防災』  
社会応援ネットワーク著 太田出版  
「エレベーターで地震にあったら？」  
「ペットも避難所に連れて行っていい？」  
Q&A方式で読みやすい! わかりやすい!  
中高生から特にリクエストの多かった質問から、  
防災を“自分ごと”として考えてみよう。  
**10/28 防災訓練が行われます!**

海じゃないかと思ったら、やっぱり光る山だったじゃないか!  
ホウ、髪の毛に風吹けば、鹿踊りじゃないか!

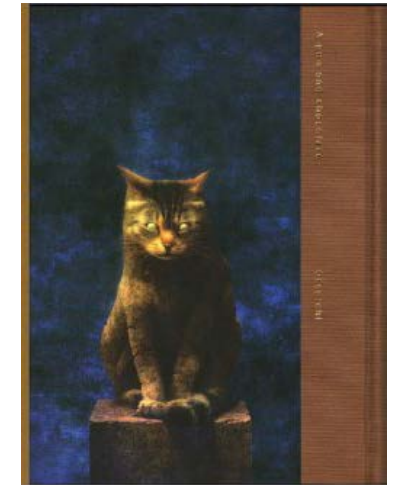
## 図書委員のいちおし図書

2年2組 森本 美空

『銃とチョコレート』 乙一著 講談社

ひらがなが多く児童書のような雰囲気ですが、  
中身はダークで、移民の話や主人公を取り巻く環  
境、登場人物の裏の顔などが描かれます。

最後の伏線回収も見事で、最後の1ページまで  
楽しめます。



2年2組 宮崎 涼花

『僕が愛したすべての君へ』 『君を愛したひとりの僕へ』  
乙野四方著 shimano イラスト ハヤカワ文庫

この作者はラノベ小説をよく書いている方です。この小説は2冊で一つの物語です。どちらから読んでも話がつながっていて、『君が愛したひとりの僕へ』から読むと幸せな結末になり、『僕が愛したすべての君へ』から読むと悲しい結末になります。なので、友達と違う本を読んでみて感想を言い合うのも楽しいと思います。

“平行世界”を行き来することができる世界で同じ名前の二人の少年がそれぞれの世界でひとりの少女と恋に落ちるラブストーリーです。

10月7日2作同日アニメーション映画公開!



高原  
海だべがど おら 思たれば  
宮沢賢治  
やっぱり光る山だだちやい  
ホウ  
髪の毛に風吹けば  
鹿踊りだちやい



地歴公民科 鹿野 智  
日本の鉄道は、  
明治5年の開業から150年になります。

まだまだ江戸時代の風情が残る明治5年(1872年)の東京に、日本最初の鉄道が開通しました。現在の有楽町の近く「汐留」(しおどめ)が新橋駅として、港のある桜木町付近を横浜駅として走り始めました。その頃の様子は、エピソードが尽きぬほど記録が残されていますが、詳しくは図書室の本から調べてみてください。興味深い話が発見できると思います。

余談ながら、「時間を守る」という意識や習慣は、この鉄道の出発時間・到着時間から人々に浸透していったのだと指摘する説もあります。

### 「夜行列車」って、知っていますか？

「やこうれっしゅ」と読みます。夕刻以降に出発して夜間、日付をまたいで運転される列車のことをいいます。現代では高速バスが主流ですが、かつては全国で夜行列車が利用されていました。24時間以上かけて目的地へ走る列車もあり、寝台ベッドや食堂車を備えた列車、なかにはシャワールームなどもあり、「動くホテル」と呼ばれた時代もありました。

今回の展示は、寝台列車です。座席が夜間は寝台ベッドとして利用されました。上下三段式や幅がわずか52cmしかないものもあり、少し窮屈な気もしますが、座りながら一晩を過ごすよりも、足を伸ばせて横になるだけでもよいとされていた時代でした。

明治5年、日本に最初の鉄道が開業して以来、今年は、ちょうど150年目にあたります。

各地で、いろいろなイベントがあるようです。日頃使い慣れた鉄道に少し目を向けてみるのも楽しいかもしれませんね。



『やこうれっしゅ 〈こどものとも〉傑作集』  
西村繁雄さく 福音館書店  
今では珍しくなった夜行列車と人々の旅の



鉄道の日とは、日本ではじめて鉄道が開通した日を記念した日です。鉄道が国民のみんなに愛され、理解と関心が深まることを目的としています。

鉄道開業150th

日本で最初に鉄道が開通されたのは、1872年(明治5年)のことでした。当時の新橋～横浜間の29km。列車は時速32kmで走ったそうです。

今で考えるとかなりのんびりとした走行ですが、当時一日がかりだった道のが1時間以内に短縮できたことは、かなり大きな功績だったようです。蒸気を見て「汽車が汗をかいている」と思い、ひしゃくで水をかける人もいたり、さらに高齢の方々は、汽車が来ると土下座して見物していたとも言われています。



上野から雪の金沢へ向かう夜行列車。見開きいっぱいホームや列車内での大勢のにぎやかな乗客の様子を描いている。

